

# 2018年度 第8回災害人文学研究会

2019年2月5日(火) 18:15 ~ 20:30

主催：東北大学東北アジア研究センター  
共催：指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点災害人文学領域



それは、もう始まっている  
しなやかに生きるために

ナレーション：鶴田真由 監督：渡辺智史「よみがえりのレシピ」  
製作・配給：有限責任事業組合 いでは堂 2017年/日本/DCP・Blu-ray/カラー/100分

自然エネルギーによる地域再生。これからの時代の「豊かさ」を巡る物語。

プログラム：

映画上映 | 18:15 ~ 20:00

意見交換 | 20:00 ~ 20:30

〈登壇者〉

渡辺智史氏

(『おだやかな革命』監督)

土屋範芳氏

(東北大学大学院環境科学研究科 研究科長・教授)

会場：

東北大学川内北キャンパス 講義棟B棟101室

(宮城県仙台市青葉区川内41)

交通アクセス：

・駐車場はございません。地下鉄東西線をご利用ください。  
(最寄駅/キャンパス直結：川内駅)

・東北大学インタラクティブマップでは位置情報の取得が可能  
です。「川内講義棟B棟」と検索してご利用ください。  
([https://www.tohoku.ac.jp/map/ja/?f=KW\\_A03](https://www.tohoku.ac.jp/map/ja/?f=KW_A03))

ドキュメンタリー映画『おだやかな革命』を観る

Story

原発事故後に福島県の酒蔵の当主が立ち上げた会津電力。放射能汚染によって居住制限区域となった飯館村で畜産農家が立ち上げた飯館電力。岐阜県郡上市の石徹白、集落の存続のために100世帯全戸が出資をした小水力発電。さらに首都圏の消費者と地方の農家、食品加工業者が連携して進んでいる秋田県にかほ市の市民風車。自主自立を目指し、森林資源を生かしたビジネスを立ち上げる岡山県西栗倉村の取り組み。都市生活者、地方への移住者、被災者、それぞれがエネルギー自治を目指すことで、お金やモノだけでなく、生きがい、喜びに満ちた暮らしの風景が生まれている。成長・拡大を求め続けてきた現代社会が見失った、これからの時代の「豊かさ」を静かに問いかける物語。

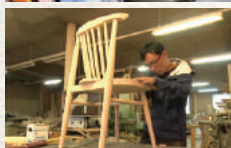


秋田 Akita

日本海からの風が吹く、にかほ市にたつ大きな風車。生活クラブ生協が、この風車を起点にしたコミュニティづくりを続けている。地域にあたりまえに吹く風は、首都圏と地域の作り手を繋いでいった。



岡山 Okayama  
地域の間伐材を使って若者が起業・移住する1500人の西栗倉村。見向きもされなかった森林は、地域の温泉施設の熱源に、美しい家具に、そして地域のつながりの中心に。



福島 Fukushima

福島県には、震災後に2つの電力会社が誕生した。立ち上げたのは、原発事故により全村避難になった飯館村の元畜産農家と、綺麗な水で有名な喜多方市の酒蔵の当主。故郷を次の世代に繋いでいくための、二人の決意、葛藤とは。



岐阜 Gifu

郡上市にある約100世帯の小さな集落、石徹白。伝統的な文化や暮らしを大切にしている移住者を起点に、地域に残る農業用水路で小水力発電事業が立ち上がる。地域の価値に気づき始めた地元住民との、懐かしくて新しい未来づくりが始まっていく。



Introduction

自然と向き合い、人と向き合い、地域と向き合いながら、これからの暮らしを自らの手で作っていくとする人たちがいる。そんな彼らの、穏やかな、そして力強い挑戦の姿を追ったのは、前作『よみがえりのレシピ』で、高度経済成長期に見捨てられてしまった伝統野菜のタネをめぐる物語を描いた渡辺智史監督。各地で始まる「暮らしの選択」、その先にある未来の風景を見据えながら、懐かしくも新しい時代への入口へと観客を誘う。



この映画には、静かに力強く、ふつふつと湧き上がってくる力があります。その力はあまりにも美しく、切なく、愛に満ちていて、胸が締め付けられそうにもなります。でも、そこに「光」を感じます。パンドラの箱に残った「希望」のように。

鶴田真由 (女優)



ナレーション：鶴田真由 | 監督・編集：渡辺智史 | 撮影：佐藤広一 | 音楽：鈴木治行 | MA：中野坂上スタジオ | 協力：高橋真樹  
2017年 / 日本 / 100分 / カラー / DCP / Blu-ray | 配給・製作：いでは堂 | 特別協賛：一般財団法人ふくしま自然エネルギー基金  
取材協力 会津電力、飯館電力、石徹白農業用水農業協同組合、生活クラブ生活協同組合、西栗倉・森の学校、村楽エナジー、枝廣淳子、辻信一、広井良典 (ほか)  
《映画「おだやかな革命」公式HP》 <http://odayaka-kakumei.com> @odayakakakumei

意見交換 登壇者

渡辺智史 (わたなべ・さとし)

山形県鶴岡市生まれ。東北芸術工科大学環境デザイン学科卒業。卒業後上京、ドキュメンタリー映像制作に従事する。2012年にドキュメンタリー映画『よみがえりのレシピ』を公開。同映画は香港国際映画祭、ハワイ国際映画祭に招待される。教育映像「在来作物で味覚のレッスン」が第9回キッズデザイン賞の「未来を担う消費者デザイン部門」で優秀賞。地域課題に真摯に向き合う、ソーシャルデザインとしての映像制作を探求している。有限責任事業組合いでは堂、共同代表。

+++

土屋範芳 (つちや・のりよし)

東北大学大学院環境科学研究科研究科長・教授  
東北大学工学研究科資源工学専攻博士課程修了工学博士。東北大学工学部助手、東北大学工学研究科地球工学専攻助教授を経て現在に至る。専門分野は地球化学、素材工学、地質学。1989-1990年・第31次、1993-1994年・第35次日本南極地域観測隊員、2009-2010年・第51次日本南極地域観測隊セール・ロンダーネ山地地学調査隊長として南極に行く。岩石と流体の相互作用についての研究を進め、現在は超臨界地熱資源に関する研究を行う。

東北大学東北アジア研究センター 災害人文学ユニット 指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点 災害人文学領域

東日本大震災に対応する形で、文化人類学・宗教学・歴史学は災害復興や防災に関わる調査研究事業を行うようになりました。従来、これらの学問分野は基礎研究を基軸とし応用的な側面は副次的な扱いでしたが、震災以降そうした状況は変化しました。具体的に言えば、文化人類学や宗教学は民俗芸能などの無形民俗文化財がもつ震災復興への役割についての実践的調査研究を、歴史学は地域の歴史文書資料に関わる保全活動を行ってきました。本ユニットは、これまで蓄積されてきたこれらの分野における災害に関わる実践的研究の成果を踏まえ、新たな研究領域の開発をふまえつつ、さらなる発展と総合化を行うことを目的とします。

東北大学東北アジア研究センター 災害人文学ユニット ウェブサイト：  
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/unit/disaster/>



おだやかな革命

～これからの暮らしを巡る物語～

研究課題

「震災映像のアーカイブ化と防災教育における活用」

災害の状況や体験者の証言、失われつつある地域の伝統行事や芸能などを記録し、背景の物語を交えてわかりやすく紹介する映像記録は、防災教育や被災地の歴史文化の継承・発展を喚起する媒体として文化財という意味もあります。東日本大震災に関連する映像は膨大であり、ドキュメンタリー映画だけでも数百タイトルが製作・上映されています。震災映像による地域社会の防災力を、震災前だけでなく震災後の災いを防ぐという意味も含めて活かすべく、国内はもちろんのこと海外の記録映画の製作者・研究者との研究会の開催および情報発信を通じて、震災映像をつくる・観る・伝える文化の発展と活用の方法論を探ります。